

## 元町公園及び旧元町小学校の評価について

元町公園および旧元町小学校は、1923（大正 12）年の関東大震災に伴う帝都復興事業の一環として整備されました。東京市は、旧元町小学校含む、倒壊・焼失した 117 校を復興小学校として新設するなかで、52 校について、元町公園のような小公園を併設し、隣接小学校の教材園・運動補助場、地域住民の利用のほか、災害時の避難場所としての機能をもたせました。

## 1 元町公園

1930（昭和 5）年に開園した元町公園は、東京市役所発行「元町公園案内」（発行年不詳ですが建設当時のものと思われます）によれば、「（前略）北は本郷区元町小学校に隣接し、東側は街路に、南側はお茶の水端の電車通りに面し、西は高い崖となり近くは飯田橋九段方面を眼下に遠くは富士箱根の連峰より秩父の山々をも一望に収め得る眺望は本市小公園中他に比を見ないのであって又地形の関係から施設物の多いこと、面積の広いことも此の公園の特色であります（旧漢字は当用漢字に改めました）」と記述されています。元町公園は、本郷台地が神田川に向かって下る斜面地の地形を取り込んで配置されており、公園からの眺望など景観的配慮があったことがうかがえます。

元町公園は、地形や眺望を生かした地割りや特徴ある造形が、創設当時のまま現在に伝えられています。約 3,500 m<sup>2</sup>の敷地は南北 2 段に分けられ、北側上段には自由広場（主要広場）と児童遊戯場が、外堀通りに面した南側下段は、急斜面に沿って設けられた大階段階に沿って、西広場、東広場そして小広場が基壇状につくられています。そして、これらの広場の縁取りとして、パーゴラ（藤棚）、大谷石やレンガ積みのカスケード（水段）、壁泉、露台があしらわれています。

元町公園の主要施設の多くは、曲線を多用した塑形的なデザインであり、モルタル洗出しや大谷石など様々な仕上げを組み合わせています。こうした種々の仕上げ材の組み合わせは、形態の面白さだけではない独特の風合いを生み出しており、元町公園の意匠を構成しています。

## 2 旧元町小学校

1927（昭和 2）年に竣工した旧元町小学校は、現存する 19 校（2010 年 3 月現在）の

復興小学校の1つです。校舎は、元町公園側に開いたコの字型で、校庭とともに、当初は公園に向けて開放されていました。校舎は、不燃化構造とするために鉄筋コンクリートが採用されており、外観は柱型をみせるデザインになっています。内部は当時の意匠として曲線・曲面が階段の手すり等に用いられています。また、機能面では、大きく効果的に配置された窓など、自然換気・採光を取り入れています。

### 3 特徴

震災復興小学校・公園として、小学校と公園が一体となった形で、現存している数少ない例であり、今も、その良好な環境を維持していることに大きな特徴があります。